



“将来の姿”を想像すること

一般財団法人下関21世紀協会 理事 中川 真紀

平成17年に下関市と豊浦郡の1市4町が合併して新しい下関市となり14年が経ちました。菊川町で育った私は子供の頃、馬関まつりなどで市内へ行くときは、ワクワクすると同時に遠くへのお出かけだなあ・・・という感じでした。高校からは地元菊川を離れ、宇部市、防府市に住みましたが、限られた場所へしか移動できなかったこともあって、広く他の街を知るといふ意味ではなんだかもったいない期間だったと思っています。

大学卒業後は菊川に戻ってきて、ご縁あって21世紀協会に入会し、歴史や文化、まちづくりに関していろいろ考えるようになりました。地元菊川の友達やまわりの人たちのなかには、『海峡花火や、馬関まつりは遠いよね』という声をよく聞きます(距離が遠いのか気持ちとして遠いのかはわかりませんが・・・)。同じ下関と言ってもその範囲の広さは日々実感するところ。もし入会していなければ、ごく身近なことだけを考えるばかりで、“下関市として”という考え方はなかったらと思います。

協会の活動の中に『海峡花通り～下関花いっぱい計画』があります。平成12年から続くこの事業の仕組みや、携わる人々の活動は全国の中でもとても貴重なもので、下関21世紀協会が中心となって運営するからこそ継続できている事業だと思っています。この活動は近年さらに盛り上がりを見せ、携わるボランティアの方にも花を育てる楽しさや、そのポイントなどが随分と浸透してきたように見えます。花を育てるうえで、植物の“将来の姿”を想像することはとても大切なことだと思っています。植えた花がどれだけ大きくなり、どのように育つかを想像し、その想像したかたちにする為には何をしたらよいかと思い巡らしながら育て始めます。結果、当初の想



海峡花通り～下関花いっぱい計画

像通りにならなくても、その“気持ち”が植物に入ること、今までとは違った思いで花壇を管理できるのではないかと思います。私自身の培った経験を活かし、育てるにあたっての最善最適な方法を考え、それを皆さんに示していければと思っています。そしてボランティアの方々が育てたそれぞれの植物が、その花たちが持つ本来のパフォーマンスをみせ、観光に来られた方を優しくもてなすと共に、僅かでも地域の方々の癒しとなることを願っています。

最近になってですが、農業界では、「ネットワーク人口を増やそう!」、「コミュニケーション能力を身につけよう」、「農業女子」などのキーワードが出てくるようになりました。これまで“生き物”とだけ向き合ってきた農業ですが、近ごろ“人と人の繋がり”の大切さについても語られるようになりました。私は就農後(約20年前)に下関21世紀協会や、JCに入会しましたが、そこでの活動と農業界の活動がどこかで繋がりはじめてるように思います。

山口県では「ステキ女子」。下関市では「下関市農業女子」という農林漁業に従事している方々の活動が昨年よりスタートしました。下関21世紀協会は仕事や年齢だけでなく、立場も考え方も違うメンバー同士がルールに沿った話し合いで事業を進めていきます。これらの活動のメンバーでもありながら、なぜかお手伝いする側にもいる私にとって、協会の事業や会議の建設的な運営の方法など参考になることも少なくありません。

私の中でいつかは叶えたいと思う事があります。それは21世紀協会です。学んだ様々なことをいつか自分を育ててくれたふるさと菊川の役に立てたいということ。そして『海峡花通り』が将来「下関インスタ名所トップ10」に入るくらいの魅力あふれる場所にしたいということです。

